

# 本箱

本学の先生方が  
執筆された新刊情報

浦部 浩之(言語文化学科教授)分担執筆

『よくわかる国際政治』

ミネルヴァ書房 2021年11月 3000円



世界を取り巻く国際政治を理解するために考えるべき、地域、平和、人権、環境、エネルギー、経済など主要な問題を網羅。必須の基礎理論を押さえて、わかりやすく解説しています。

柴田 耕太郎(交流文化学科非常勤講師)著

『翻訳メソッドで身につける 究極の英語力』

研究社 2021年10月 1600円



英語翻訳の現場に身を置きつつ、専門学校などで数多くの後身を育ててきた筆者が、自らの「翻訳メソッド」を紹介・解説するテキスト。英語の基本とともに方法論や教材などを紹介します。

市川 須美子(名誉教授)、安原 陽平(法律学科准教授)分担執筆

『コンメンタール教育基本法』

学陽書房 2021年10月 6000円



制定から約60年の時を経て改正された教育基本法について、緻密な解説を施す逐条解釈書。新法の内容、問題点、課題、旧法との比較など、一条ずつ丁寧に読み解き解説する決定版です。

須永 和博(交流文化学科教授)、鈴木 涼太郎(交流文化学科教授)、松本 健太郎(英語学科非常勤講師)分担執筆

『アフターコロナの観光学 COVID-19以後の「新しい観光様式」』

新曜社 2021年12月 2600円



コロナ禍で移動が制限され、封じられてしまったこの時代、移動を象徴する産業「観光」はどうなるのでしょうか？ その問いに答えとともに、観光の新たな可能性を探り出します。

岡田 順太(法律学科教授)共著

『グローバル化のなかで考える憲法』

弘文堂 2021年12月 4100円



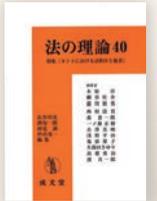
あらゆるものが国境を越えて行き交うグローバル社会の現代。国家という枠組を前提とした憲法はどのように変わっていくのでしょうか？ そのこれまでとこれからを考察・展望します。

網谷 杜介(法律学科准教授)分担執筆

『法の理論40』

特集(カントにおける法秩序と他者)』

成文堂 2021年12月 3800円



現代の法哲学的観点から考察するべき様々な問題に、多角的な視点から切り込む一冊。「カントにおける法秩序と他者」をテーマに、多くの研究者の多岐にわたる論文を掲載しています。

鈴木 道彦(名誉教授)監訳

(ジャン=ポール・サルトル 著)

『家の馬鹿息子5 ギュスターヴ・フローベール論(1821年より1857年まで)』

人文書院 2021年12月 20000円



「今日、一個の人間について何を知りうるか」という問いから、現代における人間理解の方法に迫ったサルトルの名著「家の馬鹿息子」。全5巻にわたるシリーズ邦訳の最後の一冊です。

雨宮 昭一(名誉教授)著

『時代への向き合い方』

―老年期の学問・高齢社会・協同主義―

丸善プラネット 2021年12月 1800円



我々はいかにして過去の歴史や現代という「時代」と向き合ってきたのでしょうか。人間と時代との向き合い方とこれからの課題について、論文や書評、ブログなどを通じて考察しています。

明田川 聡士(言語文化学科専任講師)著

『戦後台湾の文学と歴史・社会』

―客家人作家・李喬の挑戦と21世紀台湾文学―

関西学院大学出版会 2022年1月 4800円



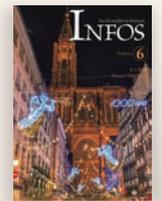
戦後台湾文学の作品、作家、読者を取り巻く“今”を、背景にある歴史問題や社会状況から探る一冊。漢民族内でも独自の文化・伝統を守る客家人の作家・李喬の作品から読み解いています。

井上 美穂(フランス語学科非常勤講師)共著

『アンフォ Vol.6』

―フランス語でニュースを読む―

駿河台出版社 2022年2月 1800円



日本人でも興味を持ちそうなフランスの時事ニュースを、平易なフランス語で取り上げた教科書です。基本的な文法を扱う文法問題と文章を読み解く読解問題が掲載されています。

朴 鍾厚(言語文化学科特任准教授)訳

(松本 克己 著)

『언어를 둘러싼 문제들 - 언어학·일본어문으로의 초대 -』

―ことばをめぐる諸問題:言語学・日本語論への招待―

박영사 2022年2月 ₩24000



言語学をこれから学び始める人々に捧げる入門書。世界の言語を俯瞰しつつ歴史や構造を分析、日本人・日本語のルーツにまで迫る、言語学の面白さを詰め込んだ一冊の韓国語版です。

関戸 冬彦(言語文化学科非常勤講師)著

『大学英語教育と文学の新たな統合』

―日本の大学における英語と文学の授業実践―

日本評論社 2022年2月 4400円



英語教育の教材に文学作品を扱った場合どれだけの有効性があるのかを探求した一冊。第一部では期待される効果を論じた論文を、第二部では先進的な実践事例と方法を紹介します。

朴 鍾厚(言語文化学科特任准教授)著

『コツコツ知ろう 韓国の社会と文化』

博英社 2022年4月 1800円



韓国語能力試験4級以上の中上級者に向けた教材です。全14章、各章にテーマを設け、読解、単語、文法表現を解説、練習問題に加えて音声ファイルが利用できる2次元コード付きです。

岩崎 充益(言語文化学科非常勤講師)著

『DX時代の21世紀型学校像』

東京図書出版 2022年4月 909円



21世紀も20年を過ぎ、DX(デジタルトランスフォーメーション)の時代を迎えた現代で、教育と教師はどう変わっていくべきなのでしょうか。そのあり方と今後の展望を探ります。

獨協大学ニュース「本箱」欄に掲載する新刊情報をお寄せください。

本学教職員(非常勤講師含む)が執筆した単著・共著・分担執筆・監修・翻訳書などの新刊情報を募集しています。なお、価格は税抜表記としております。新刊がありましたら、中央棟2階総合企画課までご持参ください。表紙撮影後、返却いたします。